タウンニュース特別企画　風水害への備え

近年、台風や大雨・暴風による被害が大きくなっています。
台風シーズンを前に風水害の備えについて確認しましょう。
大切なのは「他人事」を「自分事」にすることです。

コロナ禍での避難　防災拠点3密対策を強化

「分散避難」呼びかけも

台風シーズンを控え豪雨や地震などの自然災害と新型コロナウイルス感染症が重なる「複合災害」への対策は急務だ。横浜市は感染防止備蓄品を市内の全地域防災拠点に整備し避難所の感染症対策を強化するほか、避難所の3密回避のため、自宅や友人宅などへの「分散避難」を呼びかけている。

台風や大地震の際の避難場所は3密になりやすく、クラスターの発生が懸念されている。こうした状況を受け市は6月、3密を避ける地域防災拠点の開設・運営のポイントを作成した。

ポイントの中では、避難所・避難場所をできる限り増やすことなどをあげている。さらに、安全を確保できる場合には、自宅の上階などへの在宅避難や親戚、友人宅などへの分散避難を呼びかける。市の担当者は「3密を避けるには分散避難は有効な手段。行政が開設する避難場所に行くことだけが避難行動ではない。日頃から避難行動について検討してほしい」と話す。

感染防止備蓄品を整備

市は避難所の感染症対策として、7日に閉会した第2回市会定例会の補正予算で「避難所等における災害対策備蓄事業」に約1億1千万円を計上。アルコール消毒液やマスク、使い捨て手袋、段ボール間仕切り・ベッドなどを市内の全地域防災拠点459カ所と地区センターなどの補充的避難所202カ所に早急に整備し避難所の感染症対策を進める方針だ。

防災拠点などに整備される備蓄品
- 体温計1本
- マスク500枚
- アルコール消毒液20ℓ
- フェイスシールド30枚
- 消毒剤6ℓ
- 雑巾10枚
- 使い捨て手袋500組
- 段ボール間仕切り、ベッド6セット

校庭、公園使用の工夫も

「現状では3密を避けるのは難しい。工夫が必要」と話すのは、市内のある地域で地域防災拠点運営委員会連絡協議会の会長を務める人物。地震などが発生した場合は避難所が3密になる可能性が高く、体育館以外の教室や校庭、近隣の公園なども活用し、車中やテントなどで「3密回避」を検討すべきではとの声もある。防災まちづくりが専門の横浜市立大学の石川永子准教授は「クラスターの発生を防ぐには、ゾーニングや動線の確保、人の役割などをしっかりすることが大事。行政と地域住民、コロナ対策本部などの関係者との連携も重要」と話した。

保土ケ谷区域では台風などの風水害への備えが重要

昨秋、立て続けに列島を襲来した台風15号、19号ではかつて経験したことがないほどの暴風雨が吹き荒れ、各地に大きな被害をもたらしました。屋根が吹き飛び、堤防が決壊し街中が水で覆われたようすを映し出すテレビの映像は大きな衝撃でした。また、九州地方を中心に大きな被害が出ている今回の豪雨被害もあり、普段からの備えが不可欠であることを改めて考える機会になっています。これから本番を迎える台風シーズンを前に「備え」について考えてみませんか。

昨秋の台風15号・19号

ここ数年、大型化した台風や集中豪雨による水害、土砂災害が全国各地で続いています。そんな中、衝撃を与えたのが昨秋の2つの台風でした。広範囲で暴風、大雨、高潮をもたらすなど、近年は風水害が甚大化しています。本格的な雨のシーズンに入り心配している人も多いことでしょう。

区総務課によると昨年の2つの台風では約300件の建物被害が報告されているといいます。その大半が暴風による被害。瓦が剥がれ飛ぶといった屋根の損傷や飛来物や倒木による被害、雨漏りなどが発生し、罹災証明の発行を求める人からの相談が相次ぎました。山坂が多く高台に建つ家もある保土ケ谷区域において、強風は要注意と言えるでしょう。

まずは「自助」

ではどう備えればよいのでしょうか。まず第一に大切なのは「自助」。風で飛ばされそうな物を固定したり、家の中にしまうことはもちろん、窓ガラスに飛散防止フィルムを貼ることも有効です。雨風が強い時には万が一の飛来物の飛び込みに備えてカーテンやブラインドをおろしておきましょう。

また「共助」として地域内での支え合いの基盤となる自治会・町内会の存在・役割は非常に大きいと言えます。

「防災マップ」の確認を

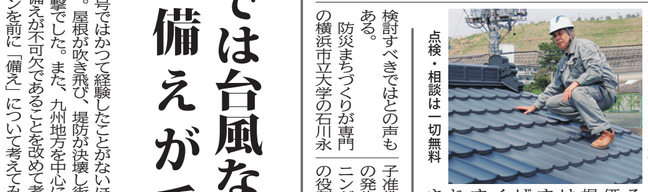
近年、自然災害が激甚化しています。九州地方や東海地方など各地で大きな被害が出ている今回の豪雨災害では熊本を中心に多くの人が命を落としています。川が氾濫し、一瞬のうちに街中に水が溢れ、崖が崩れ家を圧し潰す事態は決して「他人事」ではなく「自分事」です。

昨年度、横浜市内では10回を超える大雨などによる気象警報が発表され、その多くが8～10月の3カ月の間に集中していました。区内には帷子川と今井川が流れています。昨秋の2つの台風で河川が氾濫することはありませんでしたが、1993年11月には集中豪雨で河川が氾濫し、天王町駅周辺で水害が発生しています。

その後、堤防を高くしたり、帷子川中流部から横浜港へとつながる分水路が97年に整備されたほか、両河川には地下調整池が整備されています。しかし、「想定」を超える大雨がいつ降るかは誰にもわかりません。

保土ケ谷区では風水害や地震といった災害種別や災害発生後を場面ごとに示した「防災マップ」を作成。ホームページ上でも公開しています。

ここには1時間で約90ミリの大雨（100年に1回降ると想定される降雨）により川の水が溢れた場合や堤防が崩れた場合を想定した浸水想定区域が記されています。また、土砂災害ハザードマップも同様に公開されています。


点検・相談は一切無料

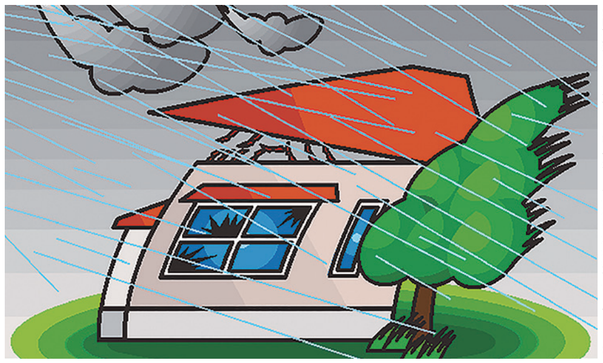
まずは「防災マップ」をチェック。WEB上でも公開されています。下記QRコードからご覧いただくことが可能です。

家族で「防災会議」

災害時の対策は地域やそれぞれの家族によって異なってきます。家族で災害時の対策を話し合う「防災会議」を開いてみてはどうでしょう。自宅の周囲がどのような地形で、どのような環境なのか、地図や自治体のサイトなどで確認し、避難経路や避難先を事前に決めておくことも重要です。

また災害用伝言サービスやアプリなどを使い、誰にどのような方法で連絡するか、あらかじめ複数の手段を決めておくことも有効でしょう。

間経路でも移動できるか④避難所まで移動ができない場合、代わりとなる場所があるかどうか。これも「備え」のひとつです。



「まずは自宅周辺の状況確認」

防災コンサルタント・田上敬さん

区内和田に拠点を置き、県内外で防災コンサルタントとして活動する田上敬さん。27年間陸上自衛隊に勤務し、東日本大震災や熊本地震などの災害派遣に関わった経験を元に、防災・減災に対する講演やセミナーを開催している。

「災害の備えで一番重要なのは、自分が住んでいる地域や自宅の状況を確認すること。自宅の屋根や地盤、近くの崖が崩れないかなどを知ることが大切です。次に、ハザードマップの確認。自分が住むエリアが、災害時どのような被害にあう可能性があるのかをチェックしてください」

熊本の震災時のようす（田上さん提供）

在宅避難を

田上さんは自衛隊での災害派遣時、混乱する避難所を多く見てきた経験から「毛布や段ボールベッドなど避難所の物資は限りがある。家に倒壊等の恐れがない場合は『在宅避難』を」と話す。緊急時に「在宅避難で問題ないか」を判断する材料がハザードマップ等での事前チェックだ。

自身の居住エリアで想定される被害を頭に入れた上で水や非常食などを用意する必要があるため、「防災用品の収集などは最後に行うべき」という。

400を超える雨を表す日本語

「しとしと」「ぽつぽつ」。日本語には400を超える雨を表す言葉があると言います。水が豊かな日本ならではの表現。癒しの効果もあると言いますが昨秋の台風、今回の集中豪雨被害を見ていると叙情的な雨を表す日本語は見つからないように感じます。地球規模で気候変動が進み、専門家は「風水害は今後、さらに増える傾向にある」と言います。家族や地域で「備え」を改めて考えてみてください。

「雨漏り」屋根・壁の点検お任せ

台風前にプロに相談を

今年も台風の季節が迫ってきた。昨年は大型台風15・19号が甚大な被害をもたらし、その多くは屋根の損壊だったことは記憶に新しいところ。屋根の心配事がある家庭は早めにプロの目で点検してもらってみては。

クマガイ商会は、保土ケ谷区で数々の雨漏り工事などを行ってきた屋根工事のプロ。連絡を受けてから即応してくれる点も施主からの評価が高い。「家は屋根から痛り、雨漏りはその寿命を縮めます。早めに対処すればさほどの工事をしなくても済むはずです。気になる点があればぜひご相談ください」と熊谷政行代表は話す。

塗装や内装工事もクマガイ商会は「信頼は細かな仕事の積み重ね」をモットーに35年の実績を誇り、住まいに関する工事全て対応する。「エクステリア、システムバス、キッチン、フローリング、畳、襖など何でもお気軽にご相談ください」と熊谷代表。

雨漏り、塗装など住まいのお悩み何でも相談
35年の信頼
クマガイ商会
株式会社サンユウ・グループ 横浜市西区境之谷5番地
0120・848・771

台風後は問合せ殺到…今なら台風「前」に修繕間に合います！

プロの日で家の破損を「無料点検」

損壊箇所は、火災保険で工事費「実質無料」になるかも！

住宅にとって脅威の台風時期がやってくる…！被害後に慌てて工事依頼をしても、問合せ殺到ですぐに工事できない場合も多い。「台風前」に修繕が間に合う今こそ、家の状態を見直す時期だ。

地元横浜のリフォーム会社『エイケンホーム』（神奈川区片倉3の1の17）なら、今の家の状態をプロ診断士がしっかり「無料診断」。屋根の上など普段は気付きづらい場所も点検してくれる。

保険申請まですべて代行

家の破損は自然災害が要因などの条件を満たすと、火災保険で自己負担額ゼロの「実質無料」で直せる場合がある。保険適用率70％以上を誇る同社では、創業27年のノウハウを持つ経験豊富なスタッフたちが、建物の点検から保険申請書類の作成まで一括サポートしてくれて安心。網戸交換などプチ修繕もお任せ。

新型コロナウイルス感染症対策を実施中。マスク着用・消毒を徹底する。まずは電話☎0120・257・406で相談を。

こんな家の傷みに要注意！

安心のリフォーム
eiken エイケンホーム
無料点検・ご相談は下記番号
0120・257・406
▲HPはこちら
受付時間／9時～18時　定休日／水曜日

土砂災害・床上浸水を模擬体験

市民防災センター（神奈川区渡）

発災から避難までの一連の行動を体験することができるさまざまなメニューが用意されている横浜市民防災センター（神奈川区沢渡）では、プロジェクタを使い窓ガラスや物体に映像を投影し、重ね合わせた映像にさまざまな視覚効果を与える技術「プロジェクションマッピング」で土砂災害や床上浸水を模擬体験することができる。体験利用には事前予約が必要。問い合わせは専用ダイヤル☎045・411・0119へ。

掲示板から避難所用品まで

町内の安全を、安心の技術で守る――

横浜で創業50年、日本保安工業

町内掲示板を設置・修繕

まちの安全を守るための製品提供を行う日本保安工業＝神奈川区新子安＝（小山巌代表）では、地域情報の発信に欠かせない「町内掲示板」の製作から設置工事、補修まで一貫して実施する。

新規取付はもちろん、ボロボロの掲示板も丁寧に修理。創業50年で培った技術と堅実な仕事ぶりが信頼を呼び、「掲示板がきれいになり、町内の美化につながった」「情報発信ツールの意義を再確認できた」と喜びの声が多数寄せられている。

災害時の避難所用品も

地域防災にも力を注ぐ同社では、災害時対策の製品として「避難所間仕切り型の簡易更衣室」と「停電時でも広範囲を明るく照らせるソーラールーンLEDライト」を新たに取り扱い始めた。

簡易更衣室は工具不要のたった5分で組み立て可能。更衣室や授乳室のほか、耐水・防錆性が高いためシャワールームにも活用できる。

ルーンライトは、電源や配線不要で停電時にも使用できる優れもの。ソーラー発電のため太陽の下に6時間置くだけで夜間12～36時間点灯し、広範囲を明るく照らす。USBポート搭載のため携帯電話の充電スポットとしても活躍する。

■問い合わせ／日本保安工業（小山さん）☎045・432・1390

掲示板の修繕で、まちの美化に

停電時に明るく点灯し、携帯電話の充電スポットにもなるLEDライト

「雨漏り」屋根・壁の点検お任せ

台風前にプロに相談を

続く自然災害に備え　地域を守る消防団

保土ケ谷消防団　消防団員募集中！

【お問い合わせ】保土ケ谷消防署総務・予防課消防団係　TEL:045-342-0119

風水害や地震、火災など、いつ発生するか分からない自然災害に対して迅速に対応し、地域密着で安心・安全を守る役割を担っている団体が「消防団」だ。

未だ記憶に新しい、昨年各地に甚大な被害をもたらした台風15号・19号。保土ケ谷消防団の団員らは保土ケ谷消防署と協力しながら、消防車両を使用した避難の呼びかけや地域の見回り警戒するなど、区内の被害が最小限に留まるよう警備にあたった。

台風が過ぎた後は、倒木や看板等の飛来物の撤去など被害の復旧作業にも対応。久保田重雄団長は「屋根の瓦が飛んだり、木や電信柱が倒れるなど強風での被害が目立った。高齢者は特に自身で復旧作業に対応することが難しく、団員が対応することも多かった」と当時を振り返る。

保土ケ谷消防団は団本部と4つの分団で構成され、それぞれの管轄地域で活動する。団員数は382人（7月1日現在）。団員は、仕事や学業、家事と両立しながら活動している。

消防団は満18歳以上で、市内に在住・在勤・在学の人であれば入団可能。外国人も入団できる。問い合わせは保土ケ谷消防署☎045・342・0119まで。

訓練のようす

久保田農園
園主　久保田重雄
☎045-383-3405

yuima-ru ユイマール
株式会社白岩総合商会
新型コロナウイルスの除染・除菌、特殊清掃、遺品整理など
神奈川県内外に最短当日お見積り、即時着工対応可能
☎0120-410-255

消防団応援の店
地域防災に貢献する保土ケ谷消防団とその家族が「保土ケ谷消防団応援の店」の加盟店から様々なサービスを受けられるものです。法被の形をした「保土ケ谷消防団応援の店ステッカー」の貼ってある加盟店で保土ケ谷消防団員に配布されている「保土ケ谷消防団応援の店カード」を提示することにより様々なサービスを受けられます。

社会福祉法人 横浜白光会
特別養護老人ホーム
今井の郷　美立の杜
☎045-351-7736

いざの時、慌てない「マイ・タイムライン」のススメ

「マイ・タイムライン」シートはこちらからダウンロードできます

台風や大雨などは事前におよその進路や規模が予測できます。接近時の計画をたてておくことで、適切な避難行動につなげることができます。

保土ケ谷区役所では「風水害に対し事前に備えておくべきこと」をまとめた情報を提供。この中で台風や大雨の水害を、これから起こり得る災害に対し、一人ひとりの家族構成や地域環境に合わせ、あらかじめ時系列で整理した自分自身の行動計画「マイ・タイムライン」＝写真上の作成を推奨しています。「いざ」という時に慌てることがないよう、「備え」が必要です。左記QRコードからダウンロードが可能です。

自治会町内会に加入しましょう
加入はお近くの自治会町内会役員にご相談いただくか、二次元コードからEメールを事務局までお送りください。
保土ケ谷区連合町内会長連絡会事務局
（保土ケ谷区役所地域振興課　TEL:334-6302）

@レアリア
@タウンニュース
Rare A
タウンニュース

御相談無料
ドローンで屋根の調査も可能です
地域に根差した地元総合建設業者だからこそ頼られています
台風・大雨に備え、住まいの総点検しませんか
創業50年を超える「総合建設業者」だからこそ、大切な我が家を「総合的に点検」することが可能です。
ポイントとなるのは「総合的に」という部分。本格的な台風シーズンを前に経験豊富な当社スタッフが 隅々まで丁寧に点検させていただき、「総合的な視点」で「備え」に対するアドバイスをさせていただきます。
屋根まわり　屋根から始める台風・地震対策
屋根周りの破損や瓦のずれがないかチェック。早めの点検で被害を最小限に。災害に強い家への第一歩は「屋根の軽量化」です。
雨樋　雨樋に枯葉やゴミなどが詰まると雨漏りの原因に。また、勾配などのチェックも重要です。
外壁　外壁は飛来物が当たることで損傷することがあります。ひび割れを確認しコーキングなどで水の侵入を防ぐ補修が必要です。
窓シャッター　飛散物で窓ガラスが割れてしまうケースが想定されますが、風圧に耐えられず窓が割れるケースも。傷や熱割れの有無の確認することは重要です。雨戸がない住まいも増えていますが、後付けするお客様も増えてきています。
下水　排水桝や下水に落ち葉や土が詰まると水が溢れてしまいます。ここもチェックポイントのひとつです。
総点検をさせていただきましたお客様に
100%和田産ハチミツ「WANEY」プレゼント!!
数量限定
当社では和田の本社ビル屋上に養蜂場を設け、夏から秋にかけて採蜜し、ハチミツを心を込めてビン詰めしてます
新型コロナウイルス感染対策を徹底し、弊社スタッフが点検させていただきます
住まいづくりに奉仕する
昭和建設株式会社
保土ケ谷区和田1-13-21-2階
新築からリフォームまで　サンキュー！いーわ工事
0120-391-052
建設業許可番号神奈川県知事（特2）第014898
詳しくは当社WEBサイトをご覧ください
昭和建設㈱　検索

株式会社 防災小町
防災講演・対策・相談は
☎070-5592-1970
田上（たのうえ）まで